

第2回庄原市長期総合計画審議会専門部会（教育・福祉部会）
会議録（摘録）

1. 開催日時 令和7年11月28日（金） 13:00～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁舎3階 防災対策室
3. 出席委員 上田 正之 委員 ・ 大原 一展 委員 ・ 林 充 委員
今田 貴子 委員 ・ 東 泰治 委員 ・ 早川 太 委員
織田 みね子 委員
4. 欠席委員 廣澤 伸高 委員
5. 出席職員 企画振興部長 足羽 幸宏
企画振興部企画課長 田部 伸宏
企画課企画調整係長 安藤 秀明
企画課企画調整係 山上 翔大
6. 傍聴者 0名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第2回 庄原市長期総合計画審議会専門部会

日時：①令和7年11月27日（木）13：00～15：00（経済・産業部会）

②令和7年11月28日（金）13：00～15：00（福祉・教育部会）

③令和7年11月28日（金）15：15～17：15（市民・共生部会）

場所：①庄原市役所 本庁舎5階 第3委員会室

②庄原市役所 本庁舎3階 防災対策室

③庄原市役所 本庁舎3階 防災対策室

次 第

1 開会

2 報告事項

3 議事

（1）施策体系（案）について

（2）基本事項・基本構想（素案）について

（3）基本計画（素案）について

4 その他

（1）今後のスケジュール（予定）

5 閉会

会議経過

1. 開会

2. 報告事項

資料により事務局が説明

3. 議事

(1) 施策体系（案）について

資料により事務局が説明

委員：第2回専門部会説明資料P2の1の回答内容に「熱意のある所から取り組みを進めて行くことを庁内でも認識を共有している」とありますが、優先順位を付けて進めることは理にかなっていると感じる。一方で、熱意のないところに熱意を持ってもらう必要もあるため、「その他の地域も順次取り組んでいく」などを加えた方が良いと考える。

事務局：ご意見の通りの意味合いを庁内でも共有しているため、誤解を生むことのないように記述する。

(2) 基本事項・基本構想（素案）について

資料により事務局が説明

委員：鍵括弧（「 」）とダブルクォーテーション括弧（“ ”）の使い分けに関して、第2期長期総合計画のときにも意見があったが、強調の為に使っているのであれば、その違いを事前の文章の中で説明した方が良い。

事務局：“まち”は漢字の「町」や「街」もあり、それをひらがなで表記しているものにはダブルクォーテーション括弧（“ ”）を付けている。鍵括弧（「 」）は、文章の中に埋もれることなく、強調したい文言に付けている。まだ、すべてを整理できていないため、統一的な視点をもって整理をしていく。

委員：未来像や将来像などの熟語も使い分けも意識された方がよい。また、議会での説明時にも配慮をされた方がよいと考える。

スポーツの推進について、庄原市は20年前に、「1市民、1スポーツ」を

掲げていた。目に見える成果があったわけではないが、進めていた。さらに今後は、中学校の休日における部活動の展開が求められ、健康づくりよりもスポーツを推進することが必要となってきた。行政として生涯学習課が各団体との協議を進めているため、それらも検討する必要性が出てくる。その点を頭に入れて進めてほしい。

事務局：部活動の地域移行については、教育委員会とも検討をして、進めて行きたい。

(3) 基本計画（素案）について

資料により事務局が説明

委員：PTA を代表して審議会や専門部会に参加し、子供たちの安心や安全に関わる提案をさせていただいている。PTA 連合会は、提案のみならず、自分達ができることは、連携を取り行動していきたいと考えている。私たちは、保護者が約 1,500 名、教職員が 270 名の約 1,800 名の組織である。各地域にしっかりと根付き、特に高齢者や地域の方とのコミュニケーションを大切にしている点が強みである。今後も連携を強化して、活動していきたいと考える。

事務局：アンケート調査など、様々な方法を用いて各分野の声を吸い上げる努力をしているが、今後、時代にマッチした方法も合わせて、より多くの皆様の意見を吸い上げることを模索していきたいと考えている。引き続きご提言、ご提案いただければと思う。

委員：基本計画 P2 の、子ども・子育ての子供の権利保護について、ヤングケアラーの問題が最近よく取り上げられているため、その文言を入れるかどうかは別として、「学習の機会が妨げられることがない」という視点を入れる必要があると考える。

P4 の目指す姿に、「自助、共助、公助」と記載してあるが、厚生労働省は、自助、互助、共助、公助の 4 つを上げており、総務省は、自助、共助、公助の 3 つを挙げている。共助は、厚労省では介護保険制度や医療保険制度などの公的制度を意味しており、一方で総務省では、自主防災など互助的な助け合いを意味している。この場合、ここに記載されている共助は、どちらの意味になるのか気になった。

P6 のウェルネスの施策 3-2 に関して、一貫して、生きがいを持つことが大事であり、社会参加が健康の維持に必要だと言われている。例えば、地域活動やボランティア活動などの言葉を、入れていただきたい。

P20 観光振興について、人が集まる大きな要因は、飲食だと思う。例えば、たった1軒の巻き寿司店が、毎日何千人も人を集めることがある。観光振興に、庄原市を全面に出した飲食に関する表現を入れていただきたい。

P32、行政経営の刷新に関して、これからの市政は、官民共同、民間共同、あるいは市民共同のまちづくりを行っていかなければならないという一貫した考えに大賛成である。その場合、市民と市職員は対等であり、パートナーシップが大事だと考える。当然、住民を支援し、守っていくが、一方で、市の職員を守る視点も必要である。カスタマーハラスメントのように、誰かが職員を叱りつけても、しっかり職員が守られなければ、本当の意味で共同していけないと思う。このことは、記載表現が難しいが、考えていただきたい。

事務局：共助については、担当課も色々と苦心した結果、この表現となっているが、再度確認をする。

ウェルネスに関する「生きがい」は、非常に難しく、施策の目的が重複せず、かつ漏れがないように整理をしている。例えば、地域づくりでも地域活動への参加を促したく、どちらかがどちらかにピッタリと当てはまらない部分もあると認識している。何が主目的なのかを整理した上で、社会に関わることが健康につながることも認識して、整理していきたい。

観光に関しては、庄原市は自然が豊かで、それを観に来るが、経済効果に結びつく観光振興ができていない。今後は、観光施策をたてる場合に一番重視しなければならないのは、観光消費額であり、具体的には食が主なものになる。質は当然必要だが、経済効果を生む素地はあると考える。KGIにも挙げているが、重要視していきたい。

最後のご意見については、職員として非常にありがたい言葉だと考えている。庁内でも総務課を中心に、いわゆるカスタマーハラスメント対策のマニュアルや対応の方向性を整理している。ここの施策の中に埋め込むか、具体的な取り組みとして進めるかは、検討してまいりたい。職員が安心して働ける職場環境は、市民の暮らしにも直結すると考えている。

委員：福祉、介護に、課題として障害者の話が上がっている。身体障害者連合会では、身体や精神に障害がある方に対して、広く会の活動を進めているが、人を集めることが難しく、会員の年齢も高く、会の存続が危うい状況である。可能であれば、若い世代にも多く参加していただきたい。障害者向けのスポーツや競技を月に1回程度行っているため、障害者だけではなく、皆さんに参加いただきたい。旧町の中では、障害者や健常者が集まる催しを行っているところもあり、個人情報との関係で難しい面もあるかもしれないが、障害者の情報が集められればよいと

思う。

観光に関して、私は、備後落合駅の近くに住んでおり、先日も芸備線と木次線を結ぶイベントを行っていた。芸備線と木次線は、広島県、岡山県、島根県を通る長い路線であるため、それらを活用して、人を集める活動をされると良いのではないかと思う。

事務局：障害者の方の社会参加や活動に関しては、ご意見いただいたような課題があると感じている。様々な場面で人口減少の大きな影響が出ており、特に、若い世代のネットワークが希薄になっていると感じている。施策の領域は異なるが、同じ柱の中にダイバーシティ・インクルージョンがあり、わけへだてのない社会を作ることは、障害者も含めたことになると思う。個人情報取得の難しさはあるが、検討したい。

芸備線、木次線は、報道されているように、存続が瀬戸際の状況である。先日のイベントは、賑わったとのことだが、沿線の人口を考えると生活交通としては厳しい面があるため、イベントや観光としての活用も担当課を含め考えている。

委員：子ども・子育てについて、課題に「子どもが質の高い教育を受ける必要があります」とありますが、質が高いとはどのような教育か。安心・安全の充実の項目であれば、安心・安全な保育になるのではないか。

事務局：言葉の表現は色々あると思うが、一番は安心して子どもが健やかに過ごせる環境をつくるのが、皆の共通した考えだと考える。表現については、上位に書いてある、安心に合致するように検討する。

委員：内容、文言については、特に意見はない。素晴らしい取り組みだと思う。

西城地域には、民生委員などが集まった「西城について考える会」があるが、西城町の中でも、西城と八銚では差がある。庄原市全体では、もっと違いがあるのではないかと思う。書いてあることは良い事だが、それを実践する上では難しい面が出てくると考える。私が感じているのは、地域力が衰えている中で、奮闘する人が限られているということである。その程度は、各地域で異なると考えるため、計画を見直す際には、地域を訪れて現状を見ながら、具体的な対策を検討していただきたい。

事務局：22 の振興区を取ってみても、それぞれの特色があり、似ている課題も、異なる課題もある。すべてを同じステージで見れば、できないことが多くあると考える。行政が仕事を進める上では、現場を見ることが非常に大事である。

職員が減る中で、全体を見るのが年々困難になっているが、机の上だけでは物事は進まないと考えており、皆の声を聞いたり、現地を見たりということも行っていきたい。

委員：ウェルネスに関する記述の中に、新興感染症との言葉があるが、この言葉は昔から使われてきたものか。

事務局：新型コロナからよく使われてきたが、新型コロナウイルスのみを指すものではなく、鳥インフルエンザなども指し、新型コロナ以前から使われていた言葉である。

4. その他

資料により事務局が説明

5. 閉会